



◆5月上旬移植のコシヒカリの成熟期は「平年より3～4日程度遅い」です。

◆刈り遅れないよう、計画的に準備しましょう。

1. 6月以降の気象

◇平均気温

- ・7月第3～第5半旬（7/16～25）を除き、低く推移しました。
- ・5月上旬移植の場合、出穂後20日間の日平均気温は、白未熟粒の発生が増加する26℃を下回りました（今年：25.9℃、昨年：28.3℃）。

◇日照時間

- ・平年並み～平年よりも短く推移しました。

◇降水量

- ・6月は平年よりも多く、7月は第2～第5半旬（7/6～25）の間、降雨がほとんどありませんでした。
- ・今年の梅雨明けは7/20で、平年並みとなりました。

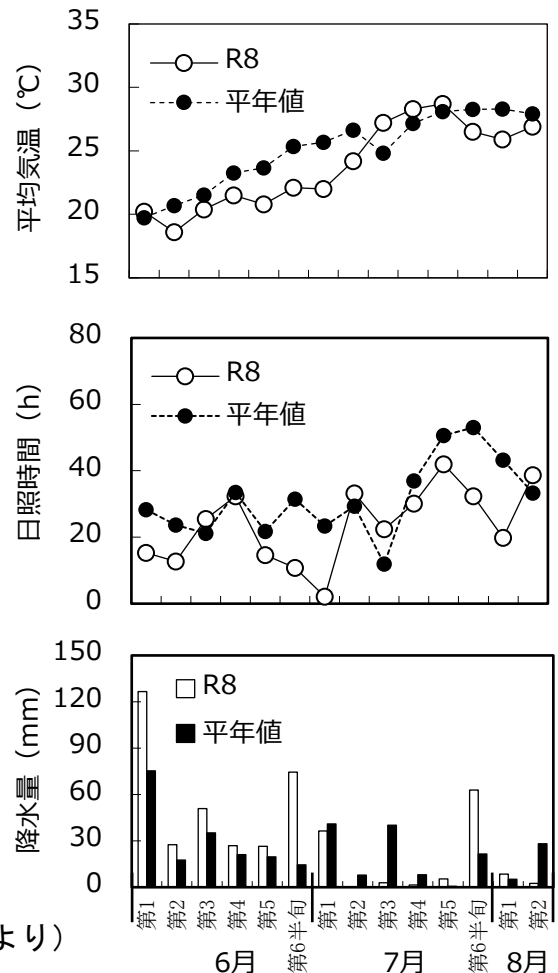


図1 平均気温・日照時間・降水量
（令和8年つくば市館野アメダスデータより）
※平年値は過去5年の平均値。

2. 病害虫の発生状況

茨城県病害虫防除所によると、各病害虫の発生状況は表1のとおりです。

いもち病の発生量は平年並みとなっていますが、一部地域では移植が遅い圃場で、被害が大きい事例も確認しています。上位葉に病斑が伸展している場合には、穂いもちを防ぐために穂ばらみ末期と穂揃期の2回防除を行いましょう。

表1 病害虫発生予報8月号（一部抜粋）

病害虫名	発生量（7月下旬時点）
いもち病	平年並み
縞葉枯病	多い
紋枯病	やや多い～多い
斑点米カメムシ類	平年並み～やや多い
ニカメイガ	平年並み
イネツトムシ	やや少ない

3. 水稻の生育状況と収穫適期

「コシヒカリ」の生育は、平年値（過去5カ年平均）と比較して、草丈は同等～低く、茎数は調査地点によりばらつきが見られ、葉色は濃い傾向です（表2）。

表2 つくば普及管内における「コシヒカリ」の生育状況（7月21日時点）

調査地点	調査年	移植日	栽植密度 (株/坪) (畝間×株間)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉色板)	葉色 (SPAD)
つくば市 上菅間	R8	5月3日	49 (30×22.5cm)	98	387	4.1	32.8
	平年	5月2日		106	424	3.4	33.7
つくば市 今鹿島	R8	5月2日	49 (30×22.3cm)	100	402	3.5	33.4
	平年	5月2日		101	418	3.4	33.2
つくばみらい市 中島	R8	5月2日	61 (30×17.9cm)	101	533	3.5	34.7
	平年	5月1日		102	470	2.7	31.8

「コシヒカリ」の出穂期は、平年より1日遅くなりました（表3）。

また、出穂期から現在までの実測気温と今後の平年気温を用いて予測した結果、「コシヒカリ」の成熟期は平年より3～4日遅くなる見込みです。なお、収穫適期は成熟期から約5日間です（「4. 今後の管理のポイント（適期収穫）」参照）。

表3 つくば普及管内における「コシヒカリ」の出穂期および予測成熟期

調査地点	調査年	移植日	出穂期	成熟期	(参考) 登熟積算気温
つくば市 上菅間	R8	5月3日	7月23日	9月4日（予測）	—
	平年	5月2日	7月22日	9月1日	1,120℃
つくば市 今鹿島	R8	5月2日	7月23日	9月2日（予測）	—
	平年	5月2日	7月22日	8月30日	1,062℃
つくばみらい市 中島	R8	5月2日	7月23日	9月2日（予測）	—
	平年	5月1日	7月22日	8月29日	1,069℃

4. 今後の管理のポイント（適期収穫）

高品質米生産のために、適期収穫に努めましょう。早刈りや刈り遅れは、収量や品質を低下させる要因となります。

- | | |
|------|---|
| 早刈り | →収量・品質の低下（千粒重の減少、青米・死米の増加）
→食味の低下（タンパク質含有率が高くなる） |
| 刈り遅れ | →品質の低下（玄米の光沢がなくなる、胴割粒・着色粒の増加） |

出穂後から収穫適期を迎えるまでの日数は、品種の早晩性などによって異なります（表4）。また、より正確に収穫時期を判断するには、別添水稻「コシヒカリ」適期収穫チャートを用いて、緑色～黄緑色がわずかに残る籾の割合（帯緑籾率）を確認します（図2）。

帯緑籾率は、1株すべての穂を用いて判定することが望ましいですが、簡易的には平均的な生育箇所から穂を5～6本採取して確認する方法でも判断できます。

表4 品種ごとの収穫適期の目安

熟期	品種	収穫適期
早生	あきたこまち	出穂後30～35日、帯緑籾率10%頃から約5日間。
	ふくまるSL	出穂後38～40日、帯緑籾率6～15%頃。
中生	コシヒカリ	出穂後35～40日、帯緑籾率10%頃から約5日間。
	にじのきらめき	コシヒカリより4～5日程度遅い。 出穂後約43日、帯緑籾率10%頃。

注）出穂後の気温によって、収穫適期の出穂後日数は前後する。

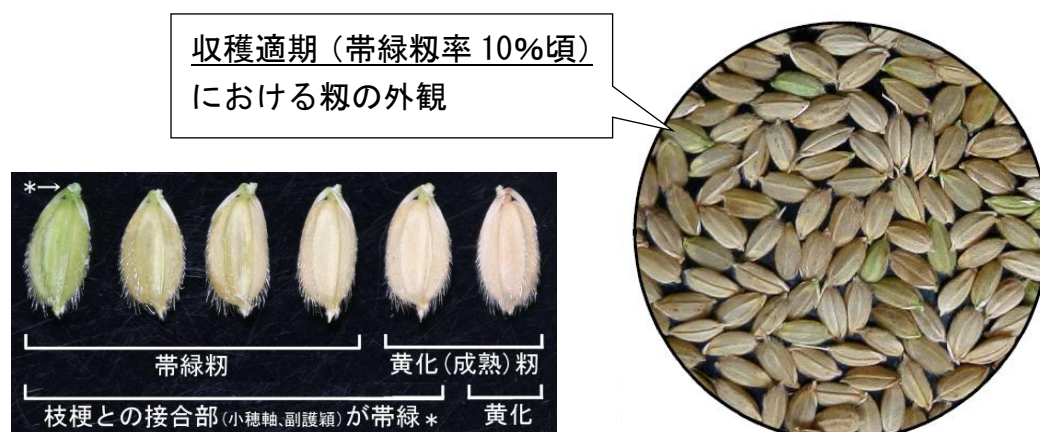


図2 帯緑籾と黄化籾の見た目の違い（左）・収穫適期の帯緑籾率（右）

5. 高温耐性品種導入のすすめ

近年、夏季の猛暑の影響で、白未熟粒の発生による水稻の品質低下が深刻化しています。水稻の高温対策には、中干しや間断かんがい等の基本技術の励行に加え、高温耐性品種の導入が最も効果的です（表5）。栽培方法などの詳細については、つくば普及センターまでお問い合わせください。

表5 高温耐性品種の特徴

品種名	早晩性	品種の概要	R7年産1等米比率(%)
一番星	早生の早	熟期が早く、県南・鹿行地域の早場米栽培地帯で作付けが多い。	76.4
ふくまるSL	早生の晩	粒が大きく、冷めても硬くなりにくい。特に高温に強い品種。	80.0
にじのきらめき	中生	「コシヒカリ」より多収であり、収益性の向上が期待できる。	62.5
ゆうだい21	中生	食味に優れ、お米のコンクールで複数回にわたり入賞実績を有する。	75.0

注）（参考）茨城県における「コシヒカリ」のR7年産1等米比率は45.3%。

補足：「にじのきらめき」について（「コシヒカリ」との比較）

「にじのきらめき」は、「コシヒカリ」より稈長が20cm以上短いため、倒伏に強く（図3）、13～20%多収です。

イネ縞葉枯病に抵抗性を有しており、玄米はやや大粒で外観品質に優れます。加えて、「コシヒカリ」と同等の極良食味であることも特徴です。

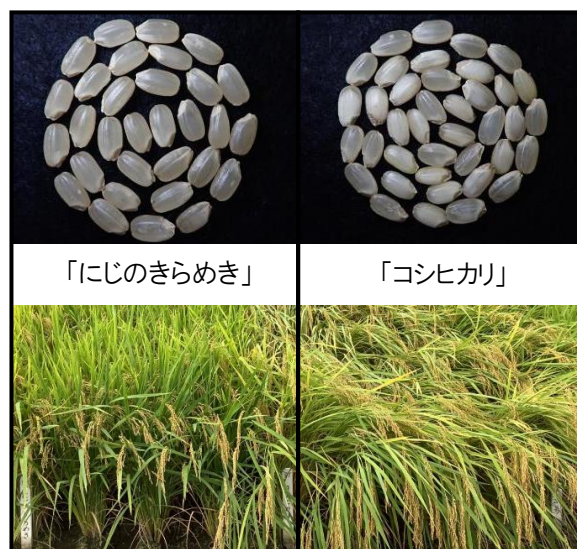


図3 両品種の草姿（成熟期）および玄米の外観

また、茨城県では、高温対策技術の一つとして実肥（追肥）の有効性が見直されています。高温条件下では肥料の溶出が早まり、出穂期頃の葉色が過度に淡くなることで、白未熟粒が発生し易くなる傾向があります。このような場合には、出穂期頃に窒素成分で1 kg/10a 程度の追肥（実肥）を行うことが有効です。